

テーマ パブリック・スピーカーとしていかに語るか

適用分野

スピーチ・コミュニケーション、英語教育、教育工学



研究名称

映像によるふり返りを通したパブリック・スピーキング能力育成—指導法とそのプロセス研究

氏名所属

野村 和宏 教授
国際言語文化センター

内容

●特徴

政治やビジネスのリーダーのみならず、授業を行う教員、ビジネスでプレゼンを行う社会人、クラブ部員の前で話す部長など、人前で話す人は誰もがパブリック・スピーカーといえます。優れたパブリック・スピーカーはどのような要素を備えているのでしょうか。

アリストテレスの弁論術では、聴き手にアピールするためのスピーチのレトリックの要素として **Logos**, **Pathos**, **Ethos** を示しています。**Logos** は論理的に論を組み立てること、**Pathos** は聴き手の感情に訴える話を加えること、**Ethos** は専門性、信頼性、熱意、平常心など話し手自身の魅力を通して訴えることです。

名スピーチと呼ばれるスピーチを分析してみれば、多かれ少なかれそうした要素を兼ね備えていることが分かります。自らがスピーチやプレゼンを発表する場合に、そうした観点を考えて準備し、練習を繰り返すことで、誰もが自信と存在感を兼ね備えたパブリック・スピーカーとして成長していくことができます。

●研究内容

われわれは通常、自分が人前でスピーチ発表をしている姿を映像で見ることはあまりありません。しかし発表中に主観的に感じていることと、客観的な姿の間には大きな違いがあります。スピーチやプレゼン能力を育てる授業では常に授業全体を録画し、発表した学生には、自らの発表映像を見て観察し、あらかじめ与えられた観点で分析・記述することで、自らの発表に向き合うことを求めています。このプロセスを経てひとたび **Reflective Self** という概念を獲得した学生は自ら成長していきます。こうしたパブリック・スピーキング能力の指導法の研究、実践、分析を行っています。



スピーチセッションを組み込んだパブリック・スピーチ授業風景

キーワード

スピーチ・コミュニケーション、パブリック・スピーキング、教員養成

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究